

# BORDERLESS IR CO., LTD

## ANNOUNCES NEWSLETTER

株式会社ダイキアクス(4245 東証プライム)  
2023年12月期第2四半期決算概要

2023年8月21日東京

**2023年12月期第2四半期決算は増収減益、海外事業、M&Aによる成長投資、ガバナンス強化によりコストが増大。インド事業は好調に推移。小形風力発電に注力**

### 決算概要

○当第2四半期連結累計期間の同社グループを取り巻く経営環境は、想定以上に長引いた新型コロナウイルス感染症によって生じた輸送費の高騰などの影響は回復に向かう一方、国際情勢の大きな混乱による電力等のエネルギー価格や原材料等の高騰によって依然として景気の先行きは不透明な状況で推移している。

このような状況下、2025年度を最終年度とする中期経営計画「PROTECT x CHANGE」を推進することで企業価値向上を図っている。具体的には、環境機器関連事業セグメントにおいては、海外における事業展開の推進、ストックビジネスとしてのメンテナンス事業及び上水エスコ事業の拡大、住宅機器関連事業セグメントにおいては、新商材の発掘等、安定事業から成長事業へ転化、再生可能エネルギー関連事業セグメントにおいては、循環型社会の実現と安定収益確保の強化、ポストFITを見据えた高付加価値事業・商材の発掘を行い、全社では、IT戦略を実現するための組織強化、生産性向上ツールとしてITを利活用していくとしている。

なおスタンダード市場への選択申請を5月12日付で東証へ提出、2023年10月20日にスタンダード市場に市場区分が変更される予定。

○当第2四半期連結累計期間の売上高は210億67百万円(前年同期比+4.9%)及び売上総利益は43億33百万円(前年同期比+4.3%)、営業利益は3億30百万円(前年同期比-37.7%)、経常利益は4億12百万円(前年同期比-41.3%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4百万円(前年同期比-98.9%)となった。

当第2四半期は、人的資本への投資、組織の基盤強化に伴う各種施策、海外事業への投資、M&Aによる成長分野への投資、コーポレート・ガバナンスの見直しなどにより販管費は大幅増となった。なお、特別損失において、製品に関する認定仕様の不適合状態を解消するための費用を1億98百万円計上した。

○環境機器関連事業は、浄化槽・排水処理システムの国内売上高は、設備投資需要の回復によって修繕工事の受注が大きく、前年四半期と比較して増加。

海外売上高は中国における産業排水処理施設の大型案件の完成、インドにおける事業の堅調な推移などの増加要因はあるが、前年同期に売上計上したイラクにおけるJICA支援プロジェクトへの浄化槽等の納入と同等の案件はなく全体としては減少。ストックビジネスであるメンテナンス売上は、契約の拡大を推進しており、堅調に推移している。

地下水飲料化事業においては、ストックビジネスであるエスコ契約に係る売上高は新規契約によって増加。エスコ契約を行わない地下水飲料化装置の販売も顧客ニーズの高まりにより売上が増加。結果、環境機器関連事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は108億53百万円(前年同期比+3.4%)、セグメント利益(営業利益)は、7億69百万円(前年同期比-6.5%)となった。

○住宅機器関連事業は、建設関連業者等売上は、メーカーの海外部品調達に起因する商品の出荷制限等の影響は解消、建設関連業者向けの販売については仕入価格及び外注費の値上げを販売価格に全ては転嫁できていない状況で、利益率に影響を及ぼしている。

ホームセンター向けリテール商材の販売は、前年同四半期と比較して増加。住機部門工事は、外壁工事の大型案件の売上が好調で、第1四半期連結会計期間買収した子会社の業績を当第2四半期連結会計期間の期首より連結に取り込んでいることから増加。結果、住宅機器関連事業の売上高は、88億17百万円(前年同期比+8.3%)、セグメント利益(営業利益)は1億76百万円(前年同期比-21.7%)となった。

○再生可能エネルギー関連事業は、太陽光発電事業では、FIT制度は期限が定められた制度であることに加え、2050年カーボンニュートラルの実現に向け電力消費量の多い大手企業を中心に電力需要が高まり、新たな事業モデルを構築する必要がある。それらに対応するためにM&Aによって太陽光発電施設の提案から施工・保守まで一気通貫で担える体制を整えている。太陽光発電事業は前年同四半期と比較した売上高は堅調に推移している。

小形風力発電事業は、前第2四半期連結累計期間に、他3社と共同参画している環境省の「CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」の売上を計上していたため、前年同四半期比減少。FITを利用した小形風力発電に係る売電施設について現在24サイトが稼働しており、2025年までに総数70サイトの稼働を計画。

バイオディーゼル燃料関連事業は、バイオディーゼル燃料を5%混合することで軽油と同様に利用することができる「B5軽油」の営業強化に取り組み、契約件数は堅調に増加。同事業は前年同期に比べ売上高は増加。水熱処理事業は、新技術確立に向けた研究開発を行っている。結果、再生可能エネルギー関連事業の売上高は、10億95百万円(前年同期比-3.5%)、セグメント利益(営業利益)は、66百万円(前年同期比-45.9%)となった。

○その他の事業は、家庭用飲料水事業について、廃プラスチックの問題等に鑑みてボトルウォーターサーバーから水道直結型ウォーターサーバーへの転換を進めている。そのためボトル型ウォーターサーバーの契約者数は減少したが、サブスクモデルの水道直結型のウォーターサーバーの契約者数は増加している。

この結果、その他の事業は売上高3億2百万円(前年同期比-4.2%)、セグメント利益(営業利益)は25百万円(前年同期比+21.4%)となった。

株式会社ダイキアキス(4245 東証プライム) <https://www.daiki-axis.com/>

2023年12月期第2四半期決算短信については、こちらをご参照ください。

→ <https://www.daiki-axis.com/ir/library/>

## リリースの免責事項

本リリースは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

## リリースに関する照会先

Borderless IR 株式会社 <http://b-ir.co.jp/japanese/main.php>

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-10 東洋ビル 6F

TEL 03-4588-6706 担当: 福田 徹

お問い合わせ <http://b-ir.co.jp/japanese/contact.php>

Borderless IR は、国内・海外向けIR情報配信専門の会社です。国内・世界有数のメディア、企業情報データベース、メーリングリスト等を通じ、海外投資家にダイレクトに企業の最新情報と本質的な強みを主としてニュースレターとアナリストレポートで配信しています。その他、海外IR支援全般を手掛けているプロフェッショナル企業です。

©Borderless IR Co., Ltd. All rights Reserved

本リリースに掲載された内容を許可なく複製、転載することを禁じます。